

都市公園の設置基準及び公園施設の設置基準【案】

基準の案	参考とすべき基準	類型
<p>この基準は、船橋市都市公園条例を一部改正して定めることを想定しています。</p> <p>なお、基準の一部は規則に委任されることがあります。</p>		
<p>都市公園の設置基準及び公園施設の設置基準【案】</p> <p>(趣旨)</p> <p>第一条 この基準は、都市公園法(昭和三十一年法律第七十九号。以下「法」という。)第十八条の規定に基づき、都市公園の設置及び管理について必要な事項を定めるものとする。</p>	都市公園法施行令(昭和31年9月11日政令第290号)	
<p>(定義)</p> <p>第二条 この基準において、次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。</p> <p>一 都市公園 法第二条第一項に規定する都市公園で船橋市(以下「市」という。)が設置する都市公園をいう。</p> <p>二 公園施設 法第二条第二項に規定する公園施設をいう。</p>		
<p>(都市公園の設置基準)</p> <p>第三条 法第三条第一項本文の条例で定める技術基準は、次条及び第五条に定めるところによる。</p>		(都市公園法第三条に「技術的基準」の参酌が規定されている。)
<p>(住民一人当たりの都市公園の敷地面積の標準)</p> <p>第四条 市の区域内の都市公園の住民一人当たりの敷地面積の標準は、十平方メートル以上とし、市街地の都市公園の住民一人当たりの敷地面積の標準は、五平方メートル以上とする。</p>	<p>(住民一人当たりの都市公園の敷地面積の標準)</p> <p>第一条の二 一の市町村(特別区を含む。以下同じ。)の区域内の都市公園の住民一人当たりの敷地面積の標準は、十平方メートル以上とし、当該市町村の市街地の都市公園の当該市街地の住民一人当たりの敷地面積の標準は、五平方メートル以上とする。</p>	参酌すべき基準
<p>(都市公園の配置及び規模の基準)</p> <p>第五条 次に掲げる都市公園を設置する場合には、それぞれその特質に応じて都市公園の分布の均衡を図り、かつ、防火、避難等災害の防止に資するよう考慮するほか、次に掲げるところによりその配置及び規模を定めるものとする。</p>	<p>(地方公共団体が設置する都市公園の配置及び規模の基準)</p> <p>第二条 地方公共団体が次に掲げる都市公園を設置する場合には、それぞれその特質に応じて当該市町村又は都道府県における都市公園の分布の均衡を図り、かつ、防火、避難等災害の防止に資するよう考慮するほか、次に掲げるところによりその配置及び規模を定めるものとする。</p>	参酌すべき基準
<p>一 主として街区内に居住する者の利用に供することを目的とする都市公園は、街区内に居住する者が容易に利用することができるように配置し、その敷地面積は、〇.二五ヘクタールを標準として定める。</p>	<p>一 主として街区内に居住する者の利用に供することを目的とする都市公園は、街区内に居住する者が容易に利用することができるように配置し、その敷地面積は、〇.二五ヘクタールを標準として定めること。</p>	参酌すべき基準
<p>二 主として近隣に居住する者の利用に供することを目的とする都市公園は、近隣に居住する者が容易に利用することができるように配置し、その敷地面積は、二ヘクタールを標準として定める。</p>	<p>二 主として近隣に居住する者の利用に供することを目的とする都市公園は、近隣に居住する者が容易に利用することができるように配置し、その敷地面積は、二ヘクタールを標準として定めること。</p>	参酌すべき基準

都市公園の設置基準及び公園施設の設置基準は条例で定めることを基本としておりますが、都市公園の設置基準及び公園施設の設置基準【案】のうち、機動的な対応が必要な内容に係る項目については、規則などに委任されることがあります。

なお、参考とすべき基準と異なる箇所については、下線・太字で表示しています。

都市公園の設置基準及び公園施設の設置基準【案】

基準の案	参考とすべき基準	類型
<p>三 主として徒歩圏域内に居住する者の利用に供することを目的とする都市公園は、徒歩圏域内に居住する者が容易に利用することができるように配置し、その敷地面積は、四ヘクタールを標準として定める。</p>	<p>三 主として徒歩圏域内に居住する者の利用に供することを目的とする都市公園は、徒歩圏域内に居住する者が容易に利用することができるように配置し、その敷地面積は、四ヘクタールを標準として定めること。</p>	<p>参酌すべき基準</p>
<p>四 主として市の区域内に居住する者の休息、観賞、散歩、遊戯、運動等総合的な利用に供することを目的とする都市公園、主として運動の用に供することを目的とする都市公園は、容易に利用することができるように配置し、それぞれその利用目的に応じて都市公園としての機能を十分発揮することができるようにその敷地面積を定めること。</p>	<p>四 主として一の市町村の区域内に居住する者の休息、観賞、散歩、遊戯、運動等総合的な利用に供することを目的とする都市公園、主として運動の用に供することを目的とする都市公園及び一の市町村の区域を超える広域の利用に供することを目的とする都市公園で、休息、観賞、散歩、遊戯、運動等総合的な利用に供されるものは、容易に利用することができるように配置し、それぞれその利用目的に応じて都市公園としての機能を十分発揮することができるようにその敷地面積を定めること。</p>	<p>参酌すべき基準</p>
<p>五 主として公害又は災害を防止することを目的とする緩衝地帯としての都市公園、主として風致の享受の用に供することを目的とする都市公園、主として動植物の生息地又は生育地である樹林地等の保護を目的とする都市公園、主として市街地の中心部における休息又は観賞の用に供することを目的とする都市公園等前号に掲げる都市公園以外の都市公園を設置する場合においては、それぞれその設置目的に応じて都市公園としての機能を十分発揮することができるよう配置し、及びその敷地面積を定めること。</p>	<p>2 地方公共団体が、主として公害又は災害を防止することを目的とする緩衝地帯としての都市公園、主として風致の享受の用に供することを目的とする都市公園、主として動植物の生息地又は生育地である樹林地等の保護を目的とする都市公園、主として市街地の中心部における休息又は観賞の用に供することを目的とする都市公園等前項各号に掲げる都市公園以外の都市公園を設置する場合においては、それぞれその設置目的に応じて都市公園としての機能を十分発揮することができるように配置し、及びその敷地面積を定めるものとする。</p>	<p>参酌すべき基準</p>
<p>(公園施設の設置基準) 第六条 法第四条第一項本文の条例で定める割合は、百分の二とし、同項ただし書の条例で定める範囲は、次のとおりとする。</p>		<p>(都市公園法第四条に参酌すべき基準として「百分の二」が規定されている。)</p>
	<p>(公園施設の建築面積の基準の特例が認められる特別の場合等) 第六条 法第四条第一項ただし書の政令で定める特別の場合には、次に掲げる場合とする。 一 前条第二項に規定する休養施設、同条第四項に規定する運動施設、同条第五項に規定する教養施設、同条第八項に規定する備蓄倉庫その他同項の国土交通省令で定める災害応急対策に必要な施設又は自然公園法(昭和三十二年法律百六十一号)に規定する都道府県立自然公園の利用のための施設である建築物(次号に掲げる建築物を除く。)を設ける場合 二 前号の休養施設又は教養施設である建築物のうち次のイから八までのいずれかに該当する建築物を設ける場合</p>	<p>-</p>

都市公園の設置基準及び公園施設の設置基準は条例で定めることを基本としておりますが、都市公園の設置基準及び公園施設の設置基準【案】のうち、機動的な対応が必要な内容に係る項目については、規則などに委任されることがあります。なお、参考とすべき基準と異なる箇所については、下線・太字で表示しています。

都市公園の設置基準及び公園施設の設置基準【案】

基準の案	参考とすべき基準	類型
	<p>イ 文化財保護法(昭和二十五年法律第二百十四号)の規定により国宝、重要文化財、重要有形民俗文化財、特別史跡名勝天然記念物若しくは史跡名勝天然記念物として指定され、又は登録有形文化財、登録有形民俗文化財若しくは登録記念物として登録された建築物その他これらに準じて歴史上又は学術上価値の高いものとして国土交通省令で定める建築物</p> <p>ロ 景観法(平成十六年法律第百十号)の規定により景観重要構造物として指定された建築物</p> <p>ハ 地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律(平成二十年法律第四十号)の規定により歴史的風致形成建造物として指定された建築物</p> <p>ニ 屋根付広場、壁を有しない雨天用運動場その他の高い開放性を有する建築物として国土交通省令で定めるものを設ける場合</p> <p>ホ 仮設公園施設(三月を限度として公園施設として臨時に設けられる建築物をいい、前三号に規定する建築物を除く。)を設ける場合</p>	
<p>2 市の設置に係る都市公園についての都市公園法施行令(昭和三十一年政令第二百九十号、以下「政令」という。)第六条第一項第一号に掲げる場合に関する法第四条第一項ただし書の条例で定める範囲は、同号に規定する建築物に限り、当該都市公園の敷地面積の百分の十を限度として前項の規定により認められる建築面積を超えることができる。</p>	<p>2 地方公共団体の設置に係る都市公園についての前項第一号に掲げる場合に関する法第四条第一項ただし書の政令で定める範囲は、同号に規定する建築物に限り、当該都市公園の敷地面積の百分の十を限度として同項本文の規定により認められる建築面積を超えることができることとする。</p>	<p>参酌すべき基準</p>
<p>3 市の設置に係る都市公園についての政令第六条第一項第二号に掲げる場合に関する法第四条第一項ただし書の条例で定める範囲は、同号に規定する建築物に限り、当該都市公園の敷地面積の百分の二十を限度として第一項の規定により認められる建築面積を超えることができる。</p>	<p>3 地方公共団体の設置に係る都市公園についての第一項第二号に掲げる場合に関する法第四条第一項ただし書の政令で定める範囲は、同号に規定する建築物に限り、当該都市公園の敷地面積の百分の二十を限度として同項本文の規定により認められる建築面積を超えることができることとする。</p>	<p>参酌すべき基準</p>
<p>4 市の設置に係る都市公園についての政令第六条第一項第三号に掲げる場合に関する法第四条第一項ただし書の条例で定める範囲は、同号に規定する建築物に限り、当該都市公園の敷地面積の百分の十を限度として第一項又は前二項の規定により認められる建築面積を超えることができる。</p>	<p>4 地方公共団体の設置に係る都市公園についての第一項第三号に掲げる場合に関する法第四条第一項ただし書の政令で定める範囲は、同号に規定する建築物に限り、当該都市公園の敷地面積の百分の十を限度として同項本文又は前二項の規定により認められる建築面積を超えることができることとする。</p>	<p>参酌すべき基準</p>
<p>5 市の設置に係る都市公園についての政令第六条第一項第四号に掲げる場合に関する法第四条第一項ただし書の条例で定める範囲は、同号に規定する建築物に限り、当該都市公園の敷地面積の百分の二を限度として第一項又は前三項の規定により認められる建築面積を超えることができる。</p>	<p>5 地方公共団体の設置に係る都市公園についての第一項第四号に掲げる場合に関する法第四条第一項ただし書の政令で定める範囲は、同号に規定する建築物に限り、当該都市公園の敷地面積の百分の二を限度として同項本文又は前三項の規定により認められる建築面積を超えることができることとする。</p>	<p>参酌すべき基準</p>

都市公園の設置基準及び公園施設の設置基準は条例で定めることを基本としておりますが、都市公園の設置基準及び公園施設の設置基準【案】のうち、機動的な対応が必要な内容に係る項目については、規則などに委任されることがあります。なお、参考とすべき基準と異なる箇所については、下線・太字で表示しています。